

産業廃棄物処理計画書

令和7年 6月 17日

福島県知事  
内堀雅雄 殿

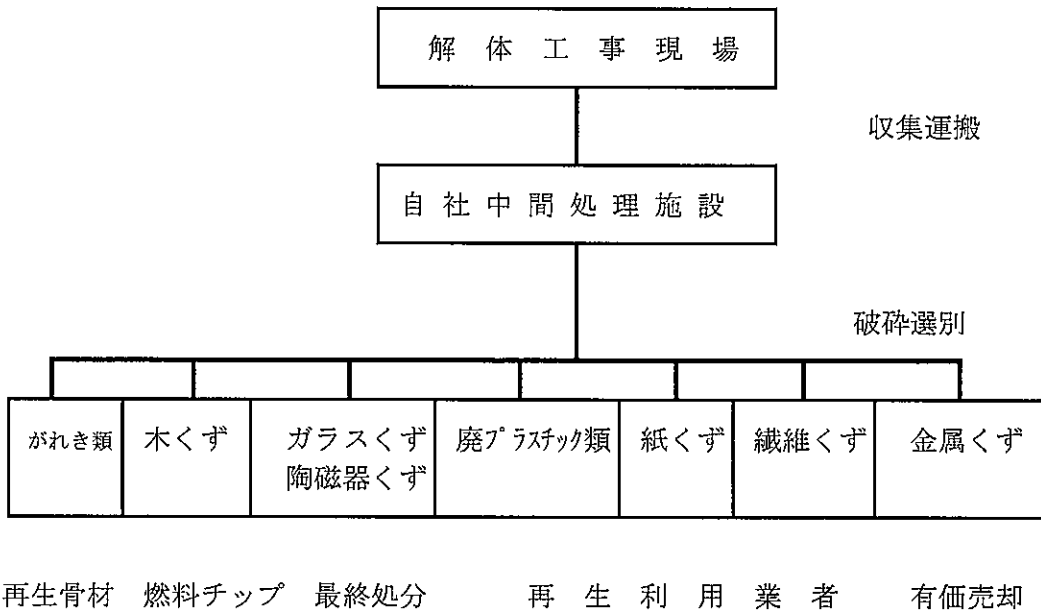


提出者  
住 所 福島県南会津郡南会津町界字梨木平149  
氏 名 有限会社 伊南川商事  
代表取締役 馬場善長  
電話番号 0241-73-2462

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	有限会社 伊南川商事
事業場の所在地	福島県南会津郡南会津町山口字下荒町2172番地1
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	土木工事業・解体工事業・産業廃棄物処理業
② 事業の規模	元請完成工事高 73,400千円
③ 従業員数	12名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙の通り

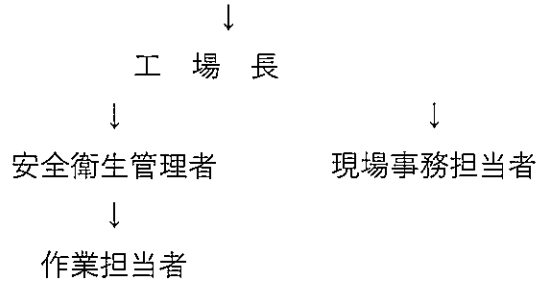
# 処 理 工 程



(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図) 総括管理者 (代表取締役・破碎リサイクル技術管理者)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

		【前年度 ( 6 年度) 実績】							
①現状	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	ガラス 陶磁器 くず	廃プラ スチック類	繊維くず	紙くず	金属くず	建設系 混合廃 棄物
		排 出 量	1325 t	339 t	28.6 t	0.3 t	0 t	0 t	0.6 t
(これまでに実施した取組)									
適正に分別することで排出の抑制を図る									
		【目標】							
②計画	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	ガラス 陶磁器 くず	廃プラ スチック類	繊維くず	紙くず	金属くず	建設系 混合廃 棄物
		排 出 量	200 t	150 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
(今後実施する予定の取組)									
現場施工方法の工夫や適正の分別に努める									

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 木くず 木の種類や状態で分別している
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 木くず 再利用できるように建設現場での取り扱いに気を付ける

## (第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項									
①現状	【前年度（ 6 年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	ガラス 陶磁器 くず	廃プラ スチック類	繊維くず	紙くず	金属くず	建設系 混合廃 棄物
	自ら再生利用を行っ た産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 自ら直接再生利用した産業廃棄物はない								
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	ガラス 陶磁器 くず	廃プラ スチック類	繊維くず	紙くず	金属くず	建設系 混合廃 棄物
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 自社破碎施設での中間処理を増やす予定								
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項									
①現状	【前年度（ 6 年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	ガラス 陶磁器 くず	廃プラ スチック類	繊維くず	紙くず	金属くず	建設系 混合廃 棄物
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	自らの中間処理により減量 した産業廃棄物の量	12 t	10 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
(これまでに実施した取組) 適正な処理に努めています									
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	ガラス 陶磁器 くず	廃プラ スチック類	繊維くず	紙くず	金属くず	建設系 混合廃 棄物
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	自らの中間処理により減量 する産業廃棄物の量	30 t	20 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
(今後実施する予定の取組) 今後も適正な処理に努める									

## (第4面)

## 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	_____ t	_____ t
	(これまでに実施した取組) 自ら埋立処分又は海洋投入処分は行っていない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	_____ t	_____ t
	(今後実施する予定の取組) 自ら埋立処分又は海洋投入処分は行わない		

## 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（ 6 年度）実績】								
	産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	ガラス陶磁器くず	廃プラスチック類	繊維くず	紙くず	金属くず	建設系混合廃棄物
	全処理委託量	0t	0t	28.6t	0.3t	0t	0t	0t	0t
	優良認定処理業者への処分委託量	0t	0t	28.6t	0t	0t	0t	0t	0t
	再生利用業者への処分委託量	0t	0t	0t	0.3t	0t	0t	0t	0t
	認定熱回収業者への処分委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処分委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	(これまでに実施した取組) 再生利用業者を選定し、処分を委託している								

## (第5面)

【目標】									
		産業廃棄物の種類	がれき類	木くず	ガラス 陶磁器 くず	廃プラ スチッ ク類	繊維くず	紙くず	金属くず
②計画	全処理委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	優良認定処理業者への 処分委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	再生利用業者への 処分委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	認定熱回収業者への 処分委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処分委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
	<p>(これまでに実施した取組)</p> <p>現在委託している再生利用業者に加え、優良認定処分業者への 処理委託を検討する</p>								
※事務処理欄									

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。